

吉益南涯 医案③

加賀侯の臣 某、謁して曰く、余 国に在るとき、膿血を便すること既に五年、衆医治す能はざるなり。故に浪華に来て医を求む。医 之を療すこと殆ど三年、然れども治せず。友人に医を善くする者有り、投ずるに桂枝加朮附子湯及び七宝丸を以てするも、また効なし。先生之を診るに、腹満ちて攣急し、腹底に物有り、之を按ずるに、剛なるときは則ち痛み、柔なるときは則ち否ず。先生 排膿湯を与う。薬を服すること数旬、沈痾 瘳ゆるを得たり。